

～資材サポート提案～

<提案①>

低温に負けない！

<提案②>

高温を跳ね返す！

<新商品紹介>

夏場のアイデア商品登場！



サカタ液肥GB

～資材サポート提案～

サカタのタネ

< 提案① > サカタ液肥GBで 低温に負けない！



< 提案① > 低温に負けない！

定植後1ヶ月をどれだけスムーズに生育させたかで決定的な差が出る作型でしつかり効果が出た！

2013年1月30日撮影

施用区

調に生育し、生育差

コントロール

上記写真はハクサイの耐寒性試験。定植時にGB1000倍株穴灌水、それ以降10日間隔で葉面散布をおこなった試験です。11月に入り、**10℃以下の低温条件下でもサカタ液肥GB施用区は、外葉の痛みが少なかった。**

< 提案① > 低温に負けない！

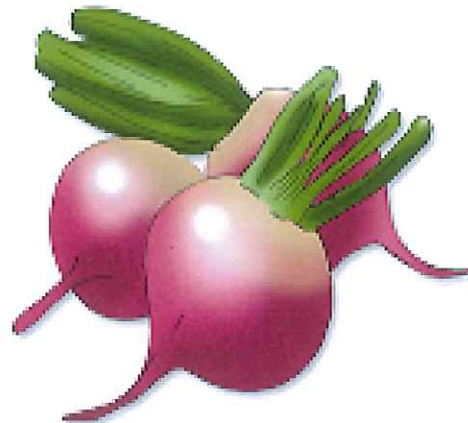


北海道での作付されているビート。
秋の収穫時期が近づき、気温が低くなると細胞の凍結を防ぐためにオリゴ糖(ラフィノース)を細胞内に蓄え、低温条件下を乗り切ることが明らかになっております。
またオリゴ糖(ラフィノース)は大腸まで届く、整腸作用を生かし、多くの商品化がされております。

耐寒性



■ビート



< 提案① >

低温に負けない！



コントロール

1回(12/29)

2回(1/8)

上記写真はトマト苗での試験。GB1000倍を2回葉面散布した苗は凍害である葉先枯れ軽減の結果がでました。**苗の耐寒性を高めます。**

是非、早春の野菜苗＋GBで付加価値のある苗を。



もちろん、圃場への定植時の1000倍ドブ漬け。定期的(3週間間隔)葉面散布も効果的です。

是非、家庭菜園にも導入を。

< 提案① > 低温に負けない！



富士五湖の一つである山梨県 本栖湖に程近い地区。「富士芝桜まつり」が毎年開催されている。

春先の低温条件下で開花時期の遅延、株張りの不良が起こり、「早春の管理」に関して課題が挙がった。

2012年5月5日撮影

< 提案① > 低温に負けない！



2012年5月5日撮影



2013年4月29日撮影

この課題に対し、サカタ液肥GBの耐寒性に着目。
2013年試験。昨年より早く開花し、株の太りも良いという
試験結果も挙がってきました。

サカタ液肥GB施用効果(芝桜)



奥がGB施用区、手前が対照区。4月20日時点で開花に差が見られている。

- サカタ液肥GB 1000倍 全面に葉面散布×2回

サカタ液肥GB施用効果(芝桜)



- サカタ液肥GB 1000倍 全面に葉面散布×2回、公園・緑花にも。
-

～資材サポート提案～

< 提案② >

サカタ液肥GBで
高温を跳ね返す！



< 提案② >

高温を跳ね返す！



コントロール



施用区

上記写真はトマトの耐高温&乾燥ストレス試験。定植時に灌水、それ以降およそ10日間隔で葉面散布をおこなった試験です。定植後90日目では30℃を越える厳しい条件下で枯れ上がりが著しく緩和されました。

< 提案② >

高温を跳ね返す！

KEYWORD

グリシンベタイン

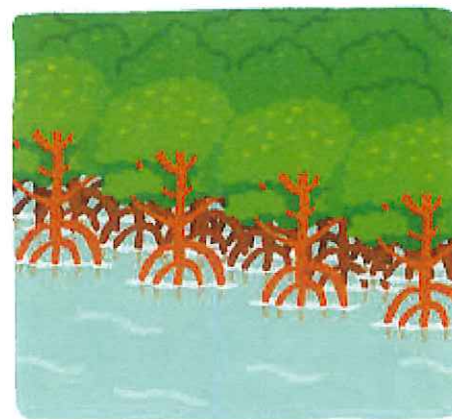


根量・吸水力向上！

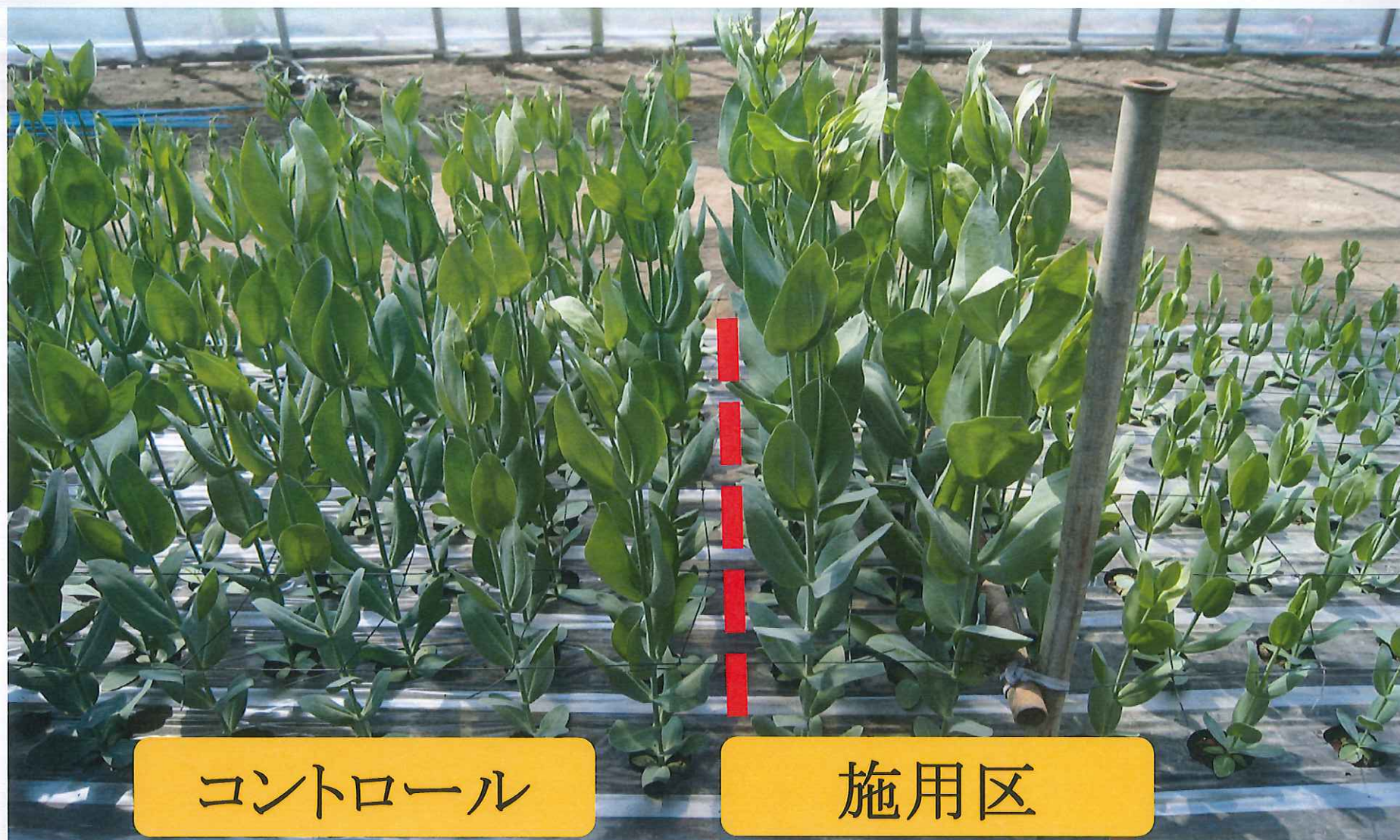
根量の増加・溶質物質として細胞内の浸透圧を高め、高温条件下でも植物体の吸水力が向上という結果が報告されております。

グリシンベタインを含む代表植物は沖縄に生育するマングローブです。高温・塩害に晒されながらも立派な森を形成している。保湿効果も評価され、化粧水でも活用されている(身近に)。

サカタのタネ



サカタ液肥GB施用効果(トルコギキョウ)



サカタ液肥GBの**ポンプ**効果を実感した。

播種日:1月23日 定植:4月26日 液肥散布日:6月9日(1回目)、6月23日(2回目)
サカタGB1000倍を灌水散布 撮影:6月30日

< 提案② >

高温を跳ね返す！

サカタのタネ



コントロール

施用区

スイカ事例

< 定植 >

4月18日

定植時

1000倍で灌水

6月5日

1000倍

チューブ灌水

草姿が

“生き生き”
としている。

8月 静岡県

サカタ液肥GB施用効果(スイカ)



夏場のスイカにはGB！

芽吹き、つる持ちはGB施用区が良い。またGB施用区の方が根の量が多く、細い根(養分の吸収根)が多い。

GB無しは根数少なく、太い根(体を支える根)しかない。